

## 本郷第三地区消費生活推進員 ナカノ(株)訪問

6月21日(火)本郷第三地区消費生活推進員12名と環境事業推進委員4名で、古着・古繊維リサイクルの会社「ナカノ株式会社」へ施設見学してまいりました。

取締役の藤田さんから、古着古布のリサイクルの歴史や現在の選別方法、再生資源化の取り組み等のお話をうかがいました。

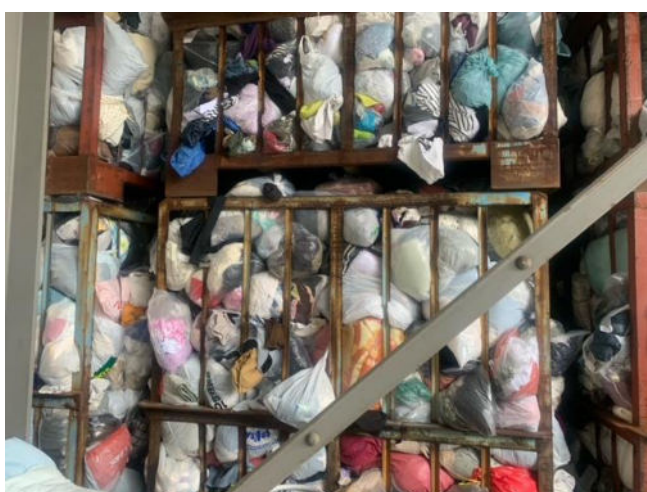
ナカノ株式会社に回収された衣服、布類は手作業で選別されます。

まだ着られるものは海外へ輸出され、古着として販売されます。使い込んだ綿の下着や肌着等は、機械の油拭きなどに使われるウエスに。

また、それらに利用できないものでも反毛(繊維を機械で綿状に戻すこと)してぬいぐるみや座布団の綿、自動車の断熱材、軍手等に生まれ変わります。



購入して不要になったら捨てるという習慣をやめ、次にどのようなものに生まれ変わり再利用されるかを考えてから購入し、着用できる消費者になろう！と見学を終えて心新たにしました。大変学びの多い見学会となりました。



回収された衣服・衣類類は、この様な状態で工場に持ち込まれます。



選別された衣類は2階の床穴から  
1階の床に落下して、右側の昇降機  
で隣りの梱包機械に送られます。



仕分け、梱包されて海外に輸出される製品

---

・衣類のリサイクル率は3割とのことですが搬出コンテナに重ねられた多量な衣類にまず驚きました。「購入の際は慎重に選んで、必要な物かどうか考えて下さい。」とお話がありました。ごく当たり前のことと思いましたが、しかし自分も着易さ、色柄などの好みで着る回数が少ない物があり、安易に捨てるのではなく活かす工夫を考えなくてはと思い帰途につきました。(鳥居)

・古着を出すことに罪悪感を感じていたのですがあれだけ細かく分類して綿に戻していただけるというお話を伺って少しは気持ちが楽になった気がしています。(井上)

・世界の地域により必要な物が全く異なる事等、奥深いお話しが聞けて良かったです。日本だけにとどまらず、グローバル的な考え方、参考になる内容で大変有意義な訪問でした。(岡澤)

・ウエスになるまで使えるのか等など、立ち止まって考えられる消費者にならなければと気付かされました。(後藤)

・古着のリサイクルの仕組みの歴史から丁寧に教えていただき、改めて普段の生活の中から自分の意識を高めていきたいと思いました。そして家族をはじめ周りの人にも伝えて繋げていきたいと思います。(小林)

・私たちの不要になった古着や古布が色んな形で再利用されていることを知りました。普段着ている洋服も少しでも綺麗にきることが大事なのかなと思いました。(高橋)

・どうせ役に立たない思いゴミに捨てていた古着。大切な資源だったんだと反省しました。繊維リサイクルの歴史や古着が、どんなふうのリサイクルされ役立っていくのか、とても興味深かったです。知識は大事で知らなければ資源を無駄にしまいます。知識だけに終わらず、行動に移していくことも大切だと思いました。企業も私達もリサイクルには余分の努力が求められますが、それはクリーンな地球を願うからなんですね。(渡辺)

・幼少期より親からもったいない、を教わってきましたが時代の流れとともに安いからと次々にモノを買うことに慣れてしまったと改めて感じました。リサイクル、リユースの歴史や仕組み現状などを詳細に学ぶことができ、とても良かったと思います。今後の生活に活かしていきたいと思います。(長瀬)

・家庭から回収された古着は海外に輸出されることは何となく知ってはいましたが、輸出される古着は主に春夏物で冬物はニーズが少ないことは今回の説明で知りました。また、1950年以前は天然繊維で洋服が作られていたが1950年代以降は化学繊維が主流となり大量生産されるようになり、問題が出てきたと説明がありました。確かに私が子どもの頃は兄弟のお古を着たり、穴が空いた靴や洋服は縫いだりして長く同じ物を使っていましたが、高度経済成長と共に使い捨てが当たり前になってきた気がします。そして物流システムが変わったこともゴミ問題が出てきた要因と考えます。現在、地球温暖化や環境破壊が大きな問題として取り沙汰され、SDGsがクローズアップされ、その為の取り組みも少しずつ進んでいますが、今後日本に従来からある「もったいない精神」が浸透していくことを期待したいと思った次第です。(望月)

・古着の流れがわかり良かったです。これからの夏を利用して親子で見学するのも良いのでは、と思いました。(渡部)

・何気なく出していた服のリサイクルでの種分けや、輸出に関してとても勉強になりました。冬服の需要がないのは驚きでした。(桑原)

